KENZ SPORTS

ケンツ見聞録

全日本ロードレース筑波ラウンドにレジェンドライダー4人がやって来た

MFJが、かつて大活躍したライダーたちの栄光の足跡を後世に残すことで2輪モータースポーツ文化を確立しようという運動をしていることは2018年10月号でお知らせした詳細は、MFJレジェンドライダースクラブを検索されたい

協力：ケンツスポーツ Tel.048-949-0118　http://www.kenz-pro.com/

Photos： Kenz and MFJ

どのスポーツ界でもレジェンドと称される人たちがいる。現役時代に築いた立派な功績を称えられて、後世に名前とその神話？などが綿々と受け継がれるのだ。例を挙げれば、野球界の王、長嶋、そしてちょっと世代を変えて松井秀喜。いずれも知名度超抜群でご存じのように国民栄誉賞にも輝いている。そのレジェンドたちの活躍を当然ライブで見ていない野球少年たちだって、松井秀喜がちびっ子野球教室などに現れれば大歓声である。

海外はともかく、日本ではマイナースポーツの部類に入る２輪モータースポーツは、こんなわけにいかない。全日本ロードレースの会場に1970〜80年代に活躍したレジェンドが現れても、若い現役ライダーはその素性を知らずに「ピットにいるあの人だれ？」という状態が悲しい現状。よっぽどファンの方のほうがレジェンドの詳細に詳しかったりする。よく考えると、これは現役ライダーがいけないのではなく、レース業界の方がなぜか啓蒙活動をこれまで行ってこなかったからだ。

そこで出た結論は、日本のこれまでの２輪モータースポーツ史60有余年の歴史と、２輪モータースポーツの今日を築き上げたレジェンドライダーたちの栄光と誇りある足跡と名前を、絶対に後世に残さなければならないということだ。こうして昨年、大久保力さんを相談役として立ち上げたのが〝MFJ レジェンドライダースクラブ〟。現在では精力的にその活動を行っている。今月号は去る６月22日〜23日、全日本ロードレース選手権筑波ラウンドで開催された〝レジェンドライダースイベント〟の模様をお伝えしよう。（川島賢三郎）

川島さんはレジェンドライダースクラブの事務局長だが、ご本人は「小間使い兼ね…」とおっしゃる

❶６月22日土曜日の午後、４人のレジェンドライダーたちは西のほうからほぼ半日をかけて、遠路はるばる筑波サーキットに到着した。パドックに用意されたレジェンド控室でしばしくつろぐ。「筑波サーキットは久しぶりだなぁ、オレの現役時代にはダンロップブリッジ手前のシケインなんかなかったもん」とかなんとか言いながら、超元気にレースを見学していました。左から、ミスターカワサキこと清原明彦さん、同じくスズキ「の代名詞である水谷勝さん、元ヤマハワークスの河崎裕之さん、僕、そして、特にロスマンズホンダNSR500のイメージが強い八代俊二さん。みんな一世を風靡したライダーたちばかりで、特筆しておきたいのは、今回の全日本ロードレース選手権筑波に出場した現役ライダーたちが、ひっきりなしにこの控室まであいさつに訪れてきたことである。このロードレース界も先輩後輩の体育会系であったということが個人的にはなぜかうれしかったりする。やっぱりスポーツの世界はこうでなくっちゃね。❷到着して小休息した１時間半後、まず土曜日のイベント開始。全決勝レースの終了後に企画された〝レジェンドライダーが先導するサーキットクルージング〟。ウェット路面ながら30数人のファンがマイバイクで参加して、レーシングスーツに着替えたレジェンドが１周２㎞の本コースを５周ほど先導走行した。そして走行が終了したあとはホームストレート上で記念写真を撮り、サイン会をした。参加者は皆口々に「レジェンドにサーキットを先導してもらって走れたうえに、直接レジェンドと話ができるなんて…」と、とっても感激してくれた様子だった。❸すべてのレースが終了しているのに、このサーキットクルージングにはたくさんのメディアも取材に来てくれた。そのメディアカメラマンたちが、代わる代わる「はい、今度はこっちを向いてくださ〜い」と、なかなか撮影大会は終わらない。２輪専門誌のカメラマンは年配の人が多いので、個人的にもレジェンドライダーたちを昔から知っていて仲がよかったりするから、こういった注文をレジェンドたちは快く受けてくれるのである。❹翌日の日曜日は午前中からレジェンドイベント目白押しの大忙しで、まずはグランドスタンド側の特設ブースでトークショーから始まった。僕はこのトークショーのMC、マスターオブセレモニーに任命された。この手の昔話ならレパートリーも少なくないので、「キヨさん、1980年代前半にKR350でここ筑波を走りましたよね。そのときのレースはどうだったんすか」とか、「八ちゃん（八代俊二）、たしか筑波でGP500に勝ったとき、チェッカー後のウィリーに失敗してコケそうになったよね。あれどうしっちゃったの？」「水谷さんは筑波の全部のコーナーでコケた経験があるって豪語してましたよね」などと、1980年代前半のマニアックな思い出話を引き出して語ってもらった。❺トークショー終了後に出演者全員が全日本筑波大会プログラムの表紙にサインをしたものを抽選で30名にプレゼントした。それは、５人がバケツリレー方式？でサインを書いたのだが、なぜか水谷さんのところでどうしてもプログラムが溜まってしまう。「水谷、オマエはサイン書くのが遅いなぁ、おかげでオレは手持ちぶさたや」と、シャケさんこと河崎さんがファンの前で水谷さんをちゃかした。で、スズキ後輩である僕が「いやいやシャケさん、昔から水谷さんはサインをすごくていねいに書くので有名なんですよ」と、フォローさせていただいた？❻トークショーが済むとまた多数のカメラマンから視線ください攻撃が起き、さらにどさくさ紛れにファンの人たちからも同様の声が。だけどこの写真、なんか視線が不自然に見えます。❼トークショーが終わってグランドスタンド側に設けられたオートレースブースで、競走車セア号とたわむれるレジェンドたち。「今はスズキ製の空冷DOHCツインエンジンを搭載してるんですよ」と教えたら少し感嘆された。だから、ついでに「僕はこのセア号に仕事で何度も乗ったことがあるです」と、ちょっと自慢げに言ったら「ふふん、俺だって乗ったことあるさ」と、ほぼ全員に言い返されてしまった。どうもスミマセンでした。❽昼過ぎのイベントは、カワイイちびっ子ライダーたちが大集合して催されたポケバイエキシビションレース。なんと１周２㎞の本コースで行われ、しかも１周１分40秒足らずで走るその速さだけでなく、ところどころでバトルを繰り広げるちびっ子ポケバイライダーの熱さには驚かされた。このポケバイレースのプレゼンテーターを務めたレジェンドたちだが、親御さんに「このレジェンドという人はレースの世界ではとてもスゴイ人たちなんだぞ」と言われたのだろう、握手を求めてきたちびっ子も多くいた。だが、同時に〝このオジサンたちは誰なの？〟というオーラも正直少なからず出ていたことを白状しておく。❾コース上に各チームがマシーンを並べてライダーも出演する、ピットウォークならぬ筑波サーキット名物〝コースウォーク〟にも休む間もなく参加した。レーサーの代わりにマーシャルバイクを置いて、その前にレジェンドライダーが立つという構図だったが、ここでもレジェンドたちは超人気者であった。もしかすると一緒に並んでいた現役ライダーたちよりもファンが多く集まってしまったか？というのは言いすぎにしておきます。でも、その証拠写真として背後からの写真をお見せしましょう。それにしても、ファンたちのカメラが途切れないこと途切れないこと。筑波サーキットって、ファンと近いからいいですよね。❿こんな感じが前からの写真です。このようにファンの方々が代わり番こに「一緒に写真を撮らしてもらってもいいですか」と、行列をなして来てくれるのだ。で、レジェンドたちはみんな人がいいから、まわりを取り巻いているファンに「ハイ、キミもアンタもみんな一緒に入りな〜」　こうしてどんどん大人数の写真になってくるといったあんばいで、みんなうれしそう。⓫そして、水谷さん、キヨさんは決勝レースのゲスト解説でグランドスタンド最上階の放送席へと移動する。レース解説といっても何をしゃべったかというと…、「オレは平忠彦には腕も顔でも負けていなかった」と言い放つ水谷さん、これに返すはキヨさん、「いやいや腕のほうはともかくとして、顔に関してはひとつひとつパーツの作りが平のほうか絶対上やった」などと、真面目なレース解説よりも断然面白かったという声が！？⓬八代の八ちゃんもGP3クラスのゲスト解説として単独登場。自分は小排気量のマシーンでのレース経験はないし、現在の全日本ロードレースGP3クラスはあまりわからないから申し訳ない、と言いながらも、そこはワールドスーパーバイクでの名解説者。おー、なるほどと、うなずけるふかーい話をしていた。⓭最後のお仕事として、ポディウムでのプレゼンテーターとしてもレジェンドたちは大活躍した。写真はシャケさんが選手たちにトロフィーを渡しているシーンだが、表彰台に上がったライダーたちはこんなレジェンドがじきじきにトロフィーを授与してくれるなどとは知らされていなかったらしい。そばから見ていて、その驚きに加え、畏敬の念の表情が実に面白かった。

YAMAHA
TSUKUBA CIRCUIT
course 2000

2019MFJ全日本ロードレース選手権
シリーズ第4戦 in 筑波
6/22 Sat. 23 Sun.

シリーズ第4戦 in 筑波
河崎裕之
Kawasaki Hiroyuki
MFJ レジェンドライダースクラブ
清原明彦
Kiyohara Akihiko
MFJ レジェンドライダースクラブ

TSUKUBA CIRCUIT
course 2000
ASIA

BRIDGESTONE
BATTLAX